

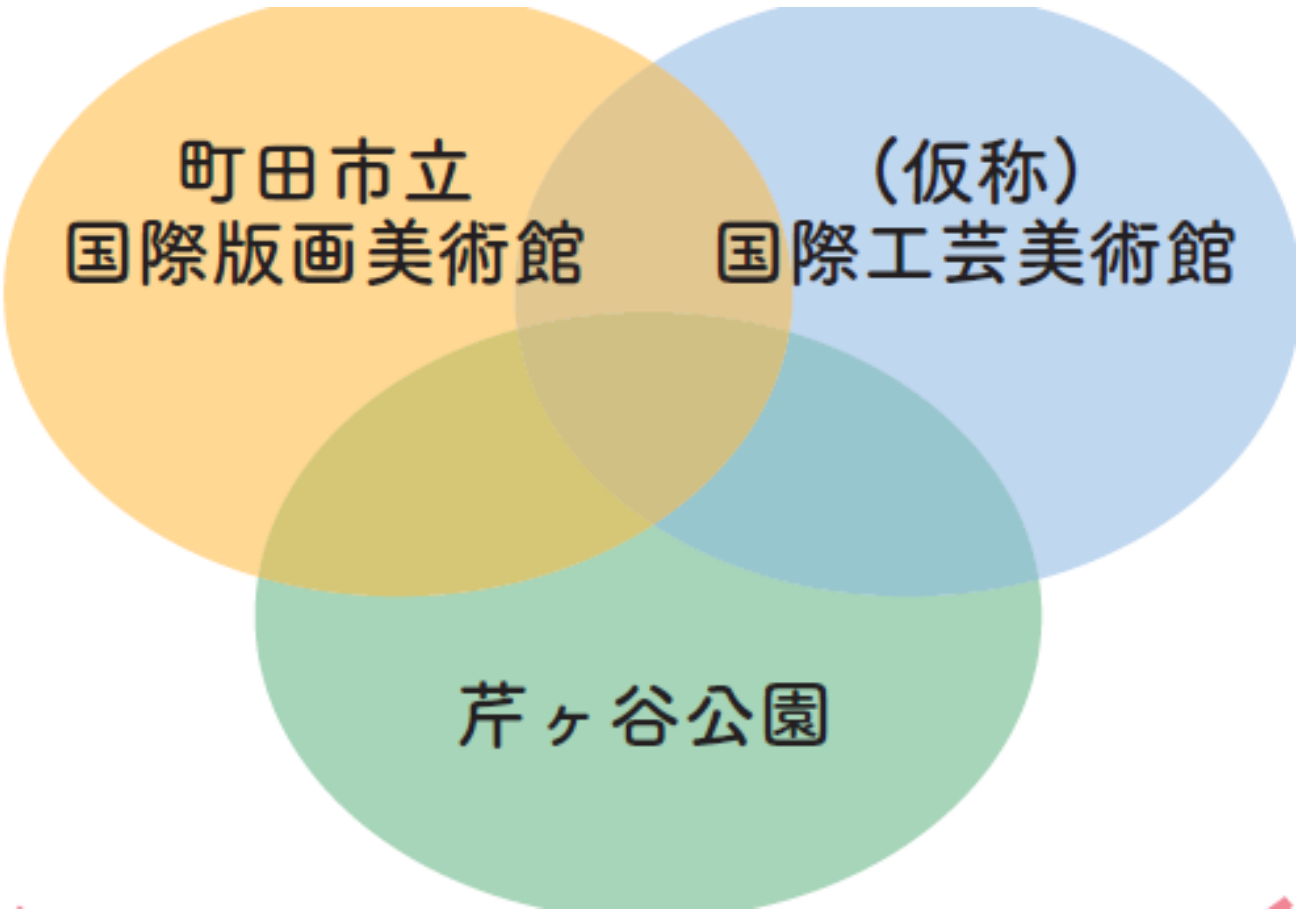
芹ヶ谷公園 “芸術の杜”

“芸術の杜”とは

まるで公園全体がおおきなミュージアムのように、多様な文化芸術の活動や公園の豊かな自然を体験しながら、みんなが学び楽しむことができる新しい体験型の公園となることを目指しています。



イメージ図

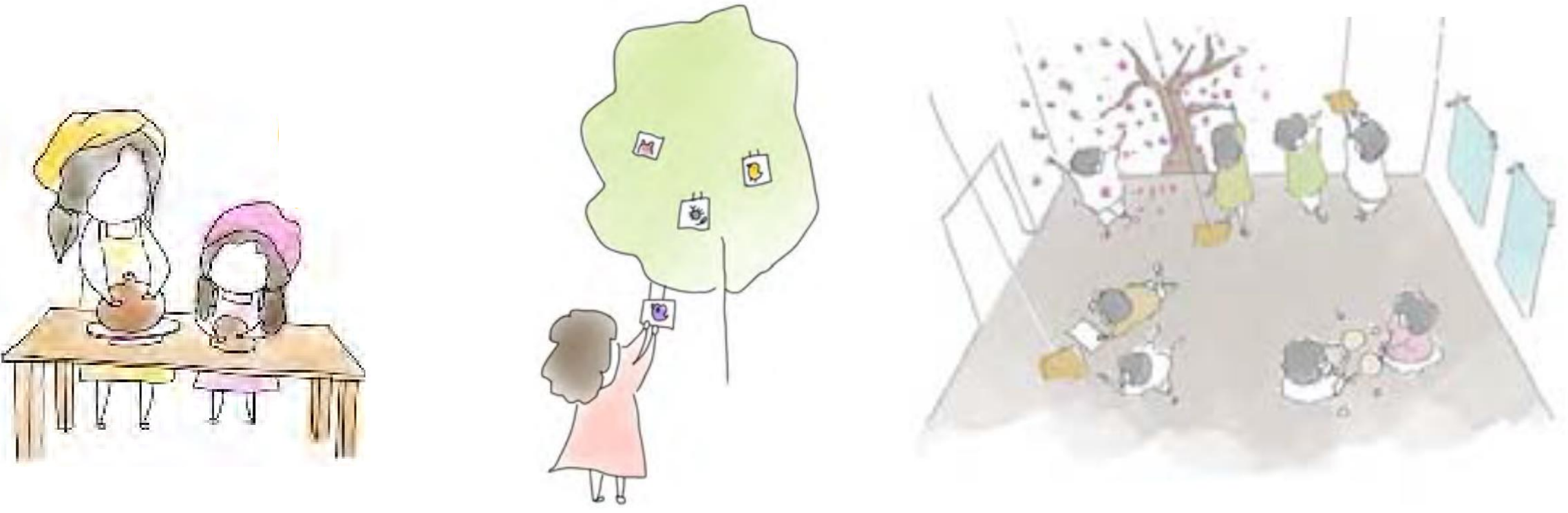
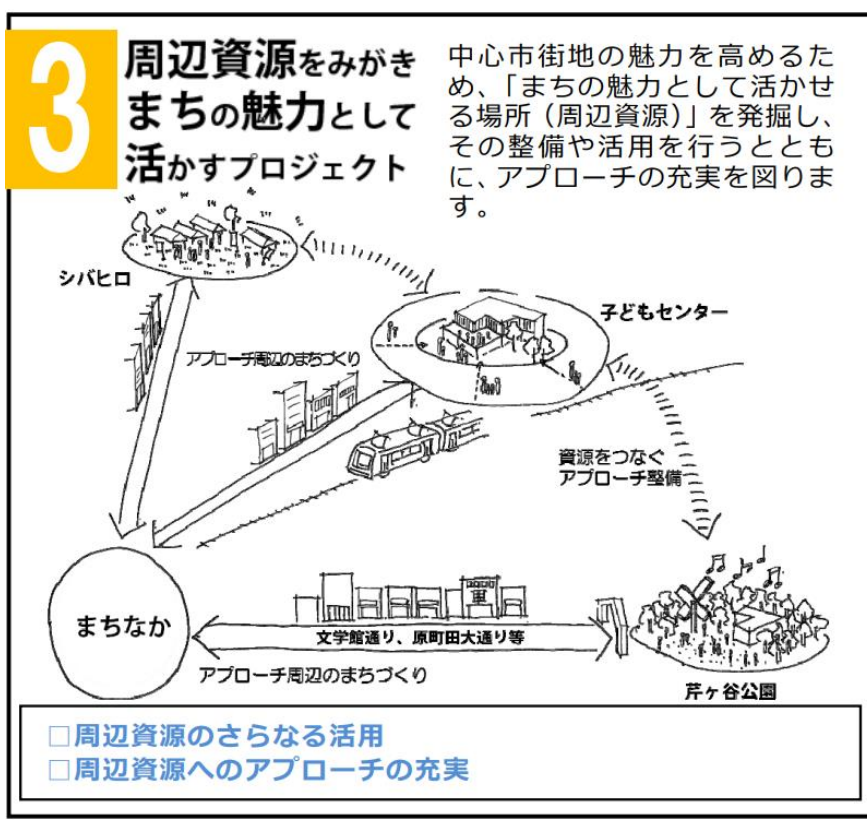


「公園と美術館の一体的な運営」

芹ヶ谷公園と美術館をそれぞれ単体として捉えるのではなく、「芸術の杜」という大きなテーマの中で一体的な整備・運営を行なうことで、公園という市民に開かれた身近な空間が多様なアートに親しむ入り口となることを目指します。

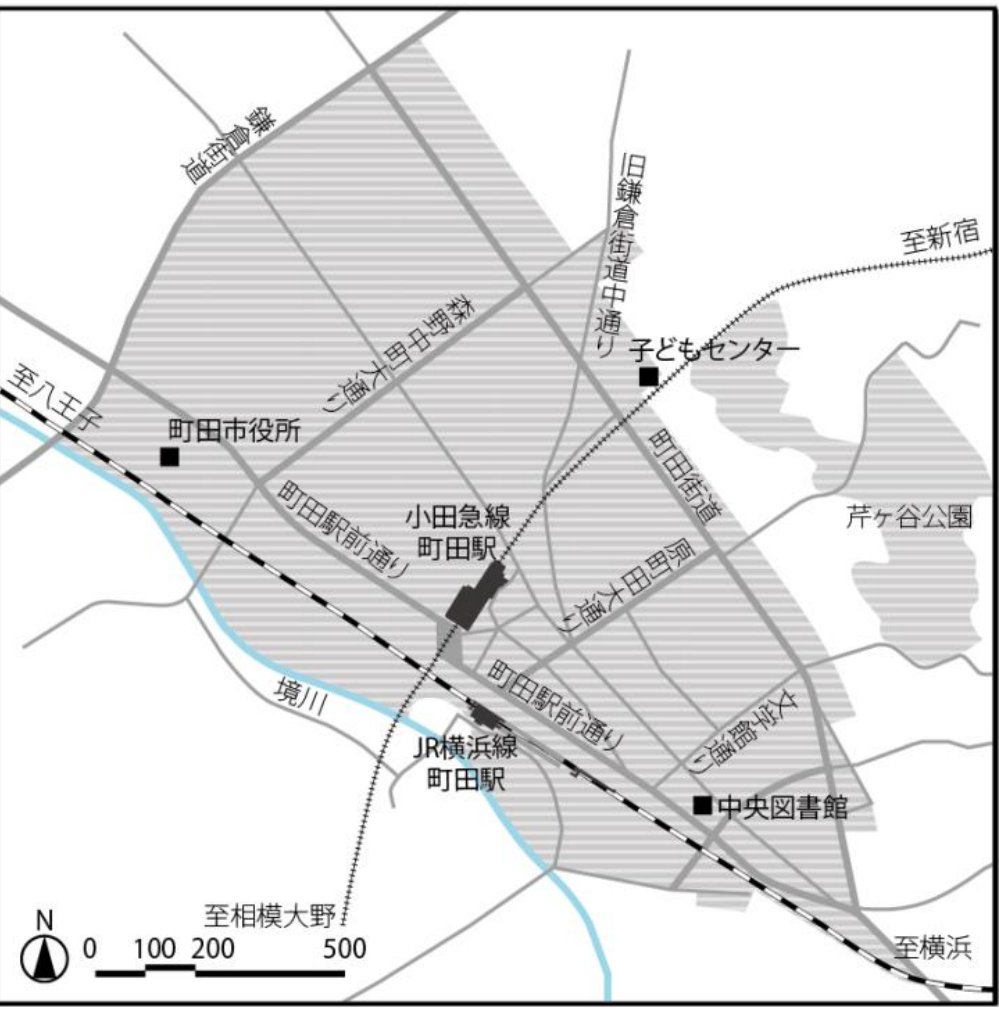
中心市街地との回遊性

「町田市中心市街地まちづくり計画」の3「周辺資源をみがきまちの魅力として活かすプロジェクト」
中心市街地と公園の回遊性を高め、まちの賑わいが芹ヶ谷公園まで連続することで、まちなかと公園が一体となった空間づくりに取り組んでいます。



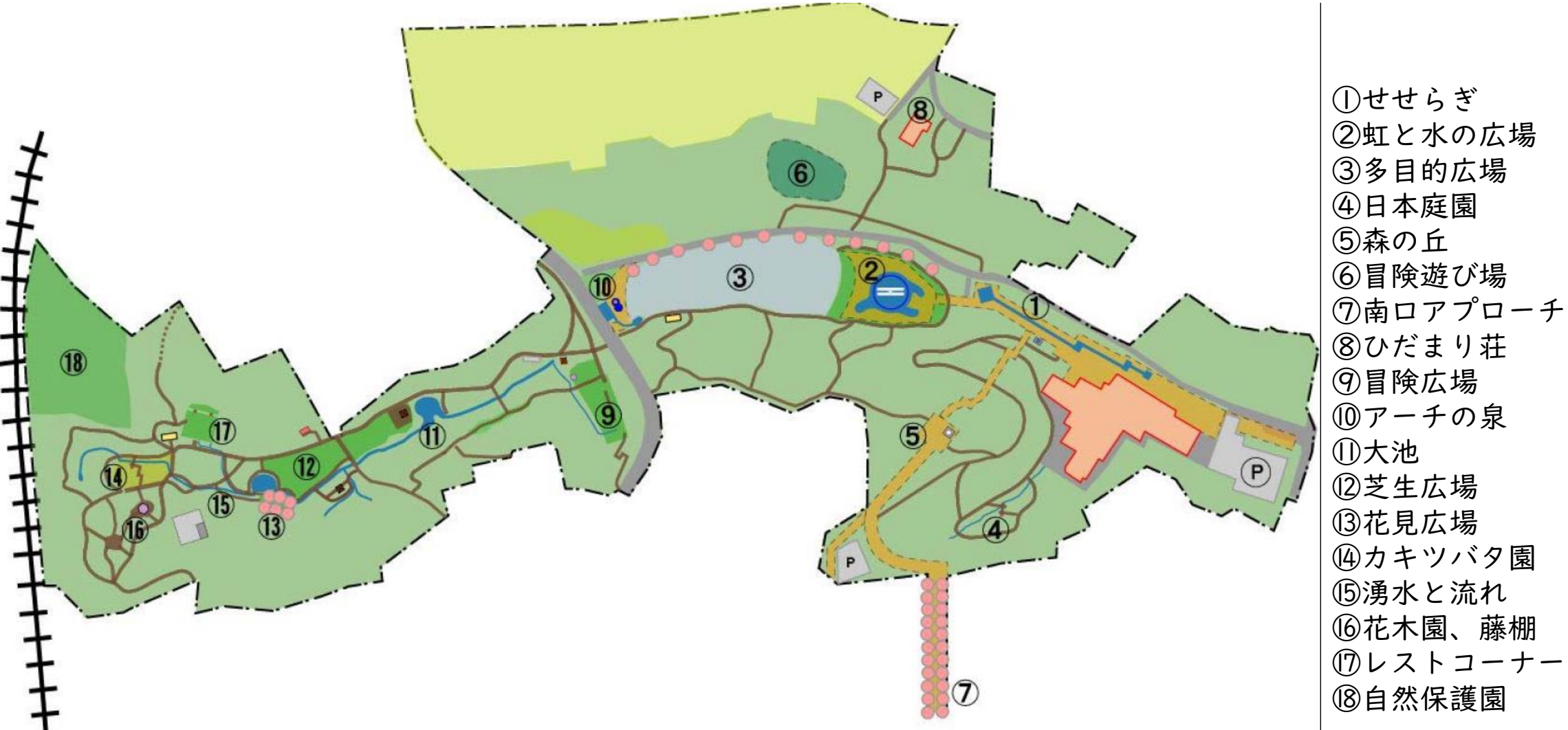
「子ども」と「体験」

幼いころから楽しみながら多様なアート（作品・活動）に触れることで、多様な価値観を受容する感性や、自分の力で豊かに表現する力を育む場を提供する。
「体験」とは、「工芸」に限定されるものではなく、“芸術の杜”にふさわしい子どもたちが多様なアート活動に五感を通じて触れられる機会や場を創造する。



芹ヶ谷公園

- ・町田駅から北東に約700m
- ・市街地のシンボリックな公園
- ・自然豊かで市民の憩いの場
- ・町田市立国際版画美術館や園内に芸術作品（オブジェ）があり、アートを感じられる
- ・町田さくらまつり、ゆうゆう版画美術館まつりなども実施されている。



これまでの経緯について（1973年～2016年）

1973年

町田市本町田に町田市郷土資料館が開館
（所蔵資料：考古、民族、歴史資料、美術工芸、絵画）

1976年

町田市郷土資料館を「町田市立博物館」に改名



町田市立博物館

2008年

市立博物館について町田市で「事業仕分け」を実施した結果「不要」と評価を受ける。
主な理由は、建物の老朽化、立地条件に不利な点が多く、本来の役割を果たせないことなどである。
一方、所蔵資料に対する高い評価もあり、町田市として「もっと市民に親しまれるものに再編が必要である」との結論を出す。

●博物館機能の再構築に向けて、「町田市博物館等の在り方検討委員会」を設置

2009年

町田市立博物館に関する意識調査（市民アンケート）を実施

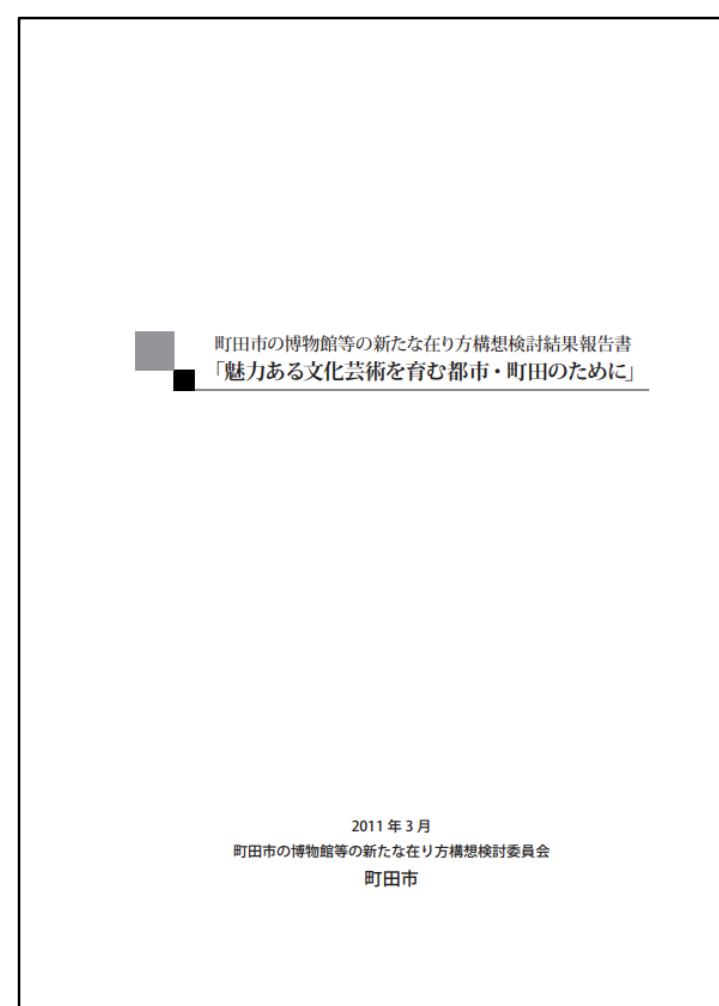
2011年

町田市の博物館等の新たな在り方構想 策定

2012年

新しい博物館の基本構想 策定

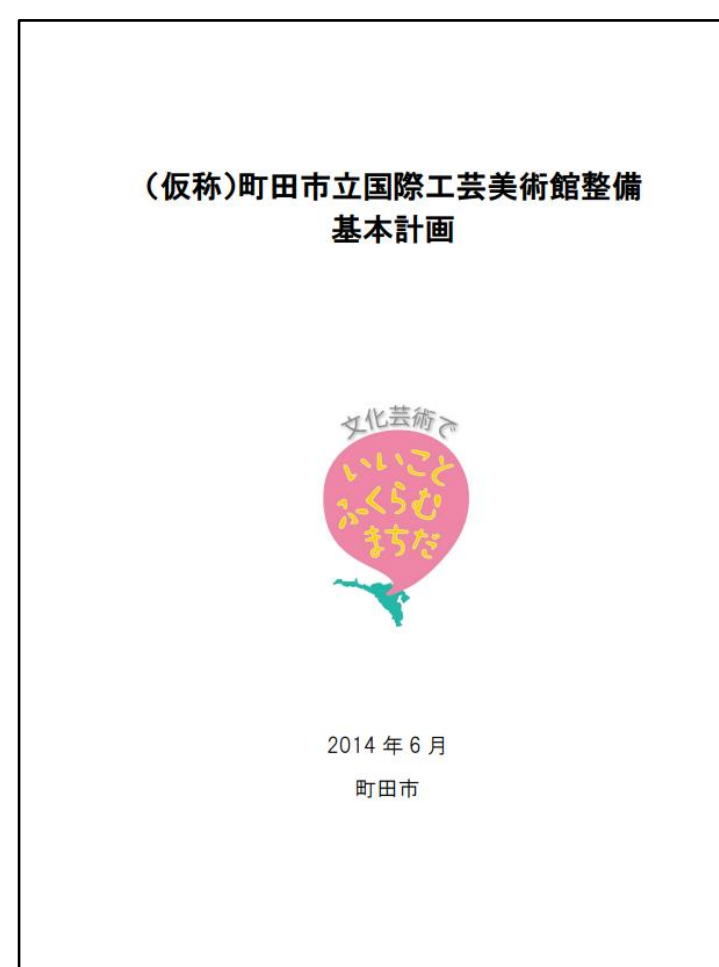
- ・再整備する博物館名称：（仮称）町田市立国際工芸美術館
- ・（仮称）町田市立国際工芸美術館の施設規模：約2,940㎡
- ・立地候補：美術ゾーンの形成を図るには国際版画美術館に近い場所が望ましい
文化芸術に親しむ場として緑に囲まれた静かな空間が望ましい
市の玄関口である町田駅からアクセスが良いことが望ましい



2014年

（仮称）町田市立国際工芸美術館整備基本計画 策定

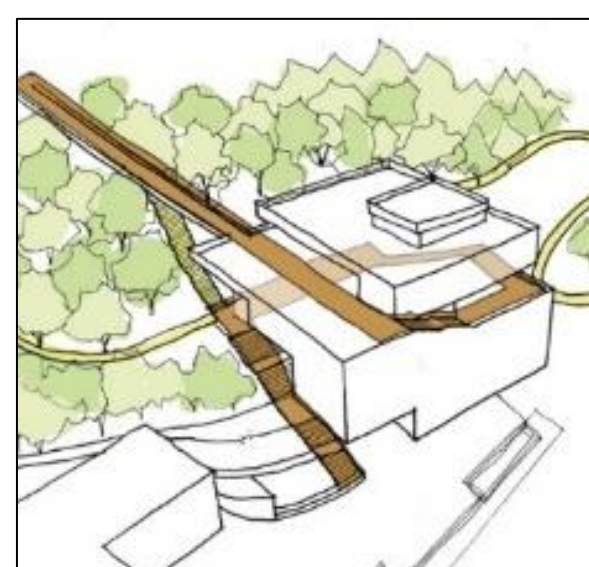
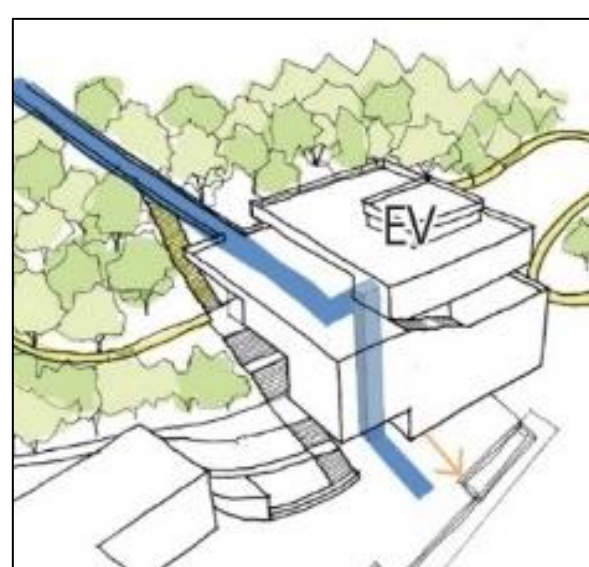
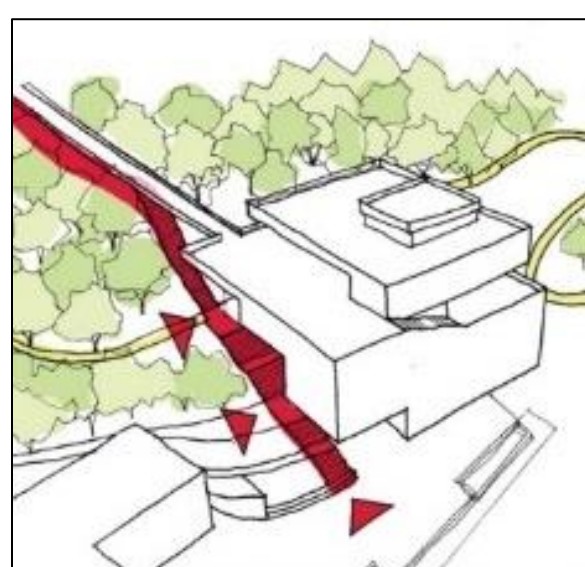
- ・建設候補地：アクセスや中心市街地との回遊性を考慮し、国際版画美術館北側に選定
- ・（仮称）町田市立国際工芸美術館の施設規模：約3,000㎡



2016年

（仮称）町田市立国際工芸美術館 基本設計完了

- ・延べ床面積：3,362.49㎡
- ・地下1階／地上4階建て
- ・市民が開館時間以外も利用できるエレベーター



動線の計画



イメージ図

これまでの経緯について（2016年～現在）

2016年

芹ヶ谷公園再整備基本計画 策定

- ・町田駅周辺の文化施設などとともに、芸術の薫りがあふれる文化芸術の場「芸術の杜」を目指す



芹ヶ谷公園再整備基本計画

2018年

（仮称）町田市立国際工芸美術館 実施設計に係る予算の否決

- ・国際版画美術館との相乗効果をより高めるべきであるなど、（仮称）国際工芸美術館の在り方に対し様々な課題などが指摘された。

2019年

（仮称）町田市立国際工芸美術館 基本設計の見直しに着手

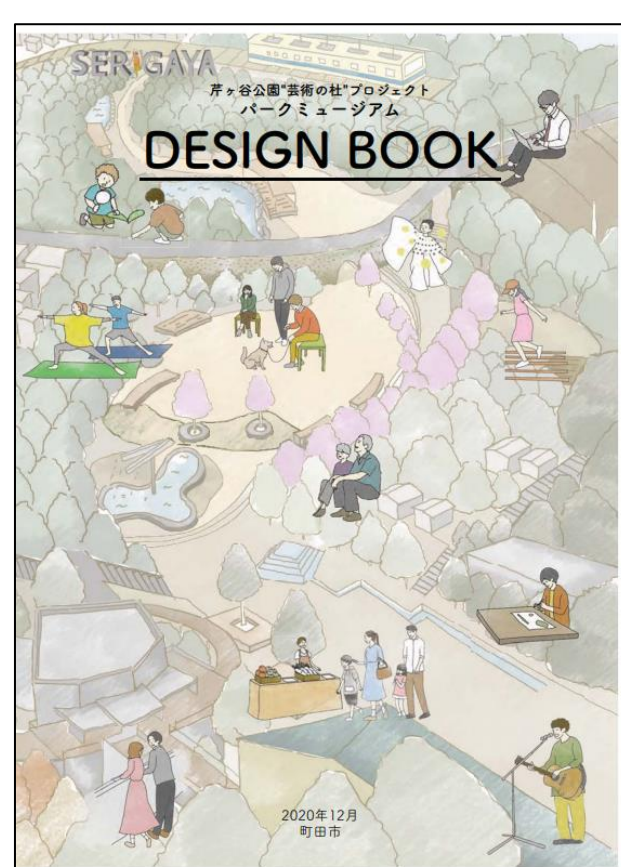
- ・芹ヶ谷公園と国際工芸美術館の一体的整備に係る総合的なデザイン設計を実施
- ・新たなコンセプト（子ども・体験）を取り入れ、2016年の基本設計を見直し

町田市立博物館での展示事業終了

2020年

芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクト パークミュージアム CONCEPT BOOK 公表

芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクト パークミュージアム DESIGN BOOK 公表



イメージビジュアル

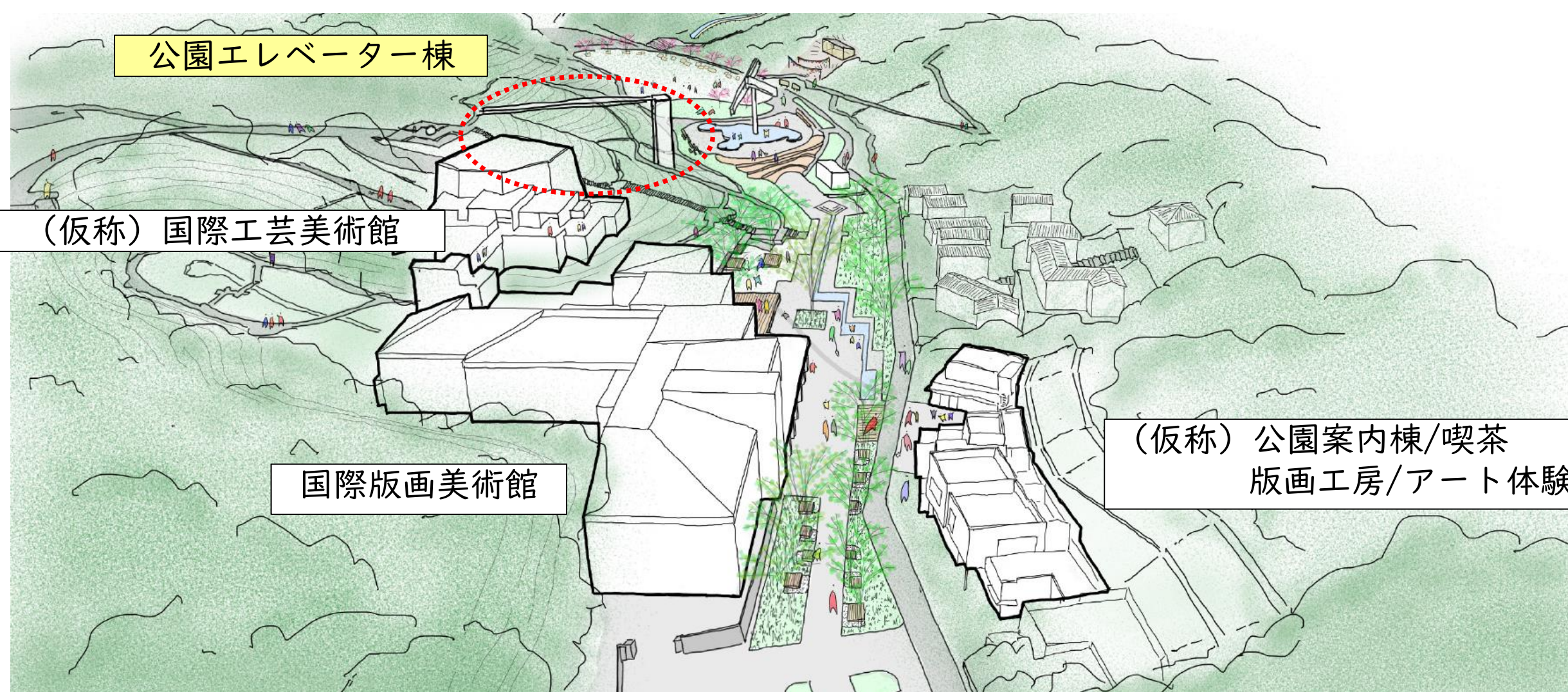
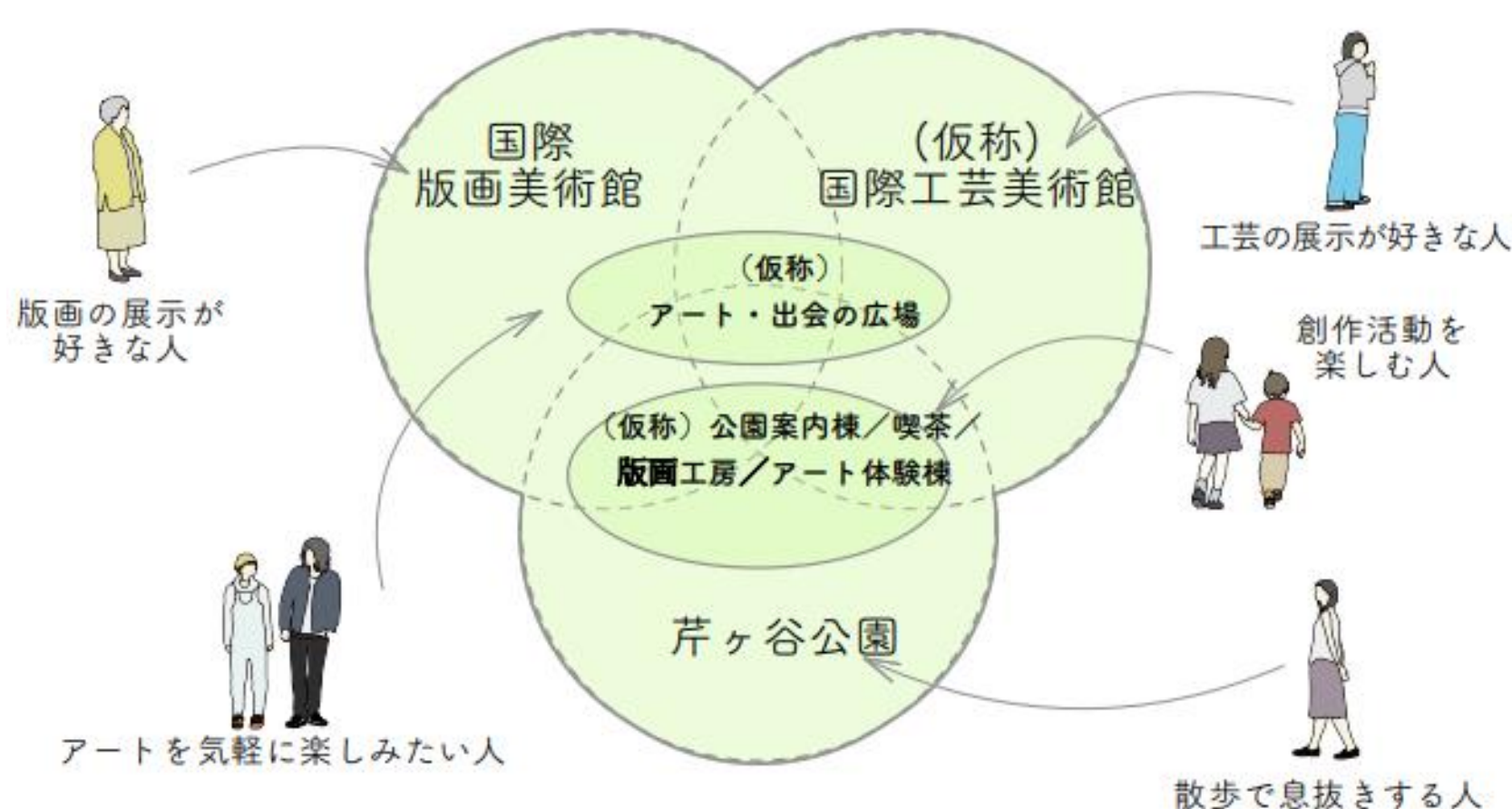
2022年

（仮称）公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟 基本計画策定

- ・“芸術の杜”の入り口としての「公園案内・運営機能」
- ・誰もが気軽に利用できる「喫茶機能」
- ・ものを作る楽しさを体験できる「工房・アート体験機能」

芹ヶ谷公園内の高低差を解消するエレベーターの計画

- ・来園者や住民の方にとってわかりやすく自転車も利用可能



イメージ図

2026年

昨今の物価高騰や技術者不足による入札不調などの社会情勢の変化を踏まえる必要があるため、より実現性の高い事業計画へ見直し

これまでの整備計画の概要 (1/3)

芹ヶ谷公園再整備（1期～3期）

基本設計 2019年～2020年（2・3期）
実施設計 2025年（2期）

コンセプト

芹ヶ谷公園の最大の特徴である谷地形を活かし、自然とともに人々の活動が生まれる場を創出



第1期 整備区域

【主な整備内容】
園路・広場、大型すべり台、多目的グラウンド、駐車場、トイレ、防災施設等（かまどベンチ、マンホールトイレなど）

都市計画道路事業に影響を受ける範囲

- 《整備工事別集計》
- ① 第2期整備区域
 - ② 第3期整備区域
 - ③ 第1期整備区域（整備済み）
 - ④ エレベーター棟整備予定区域（市施工）
 - ⑤ 都市計画道路事業に影響を受ける範囲

第1期整備区域
（整備済み）

第2期整備区域

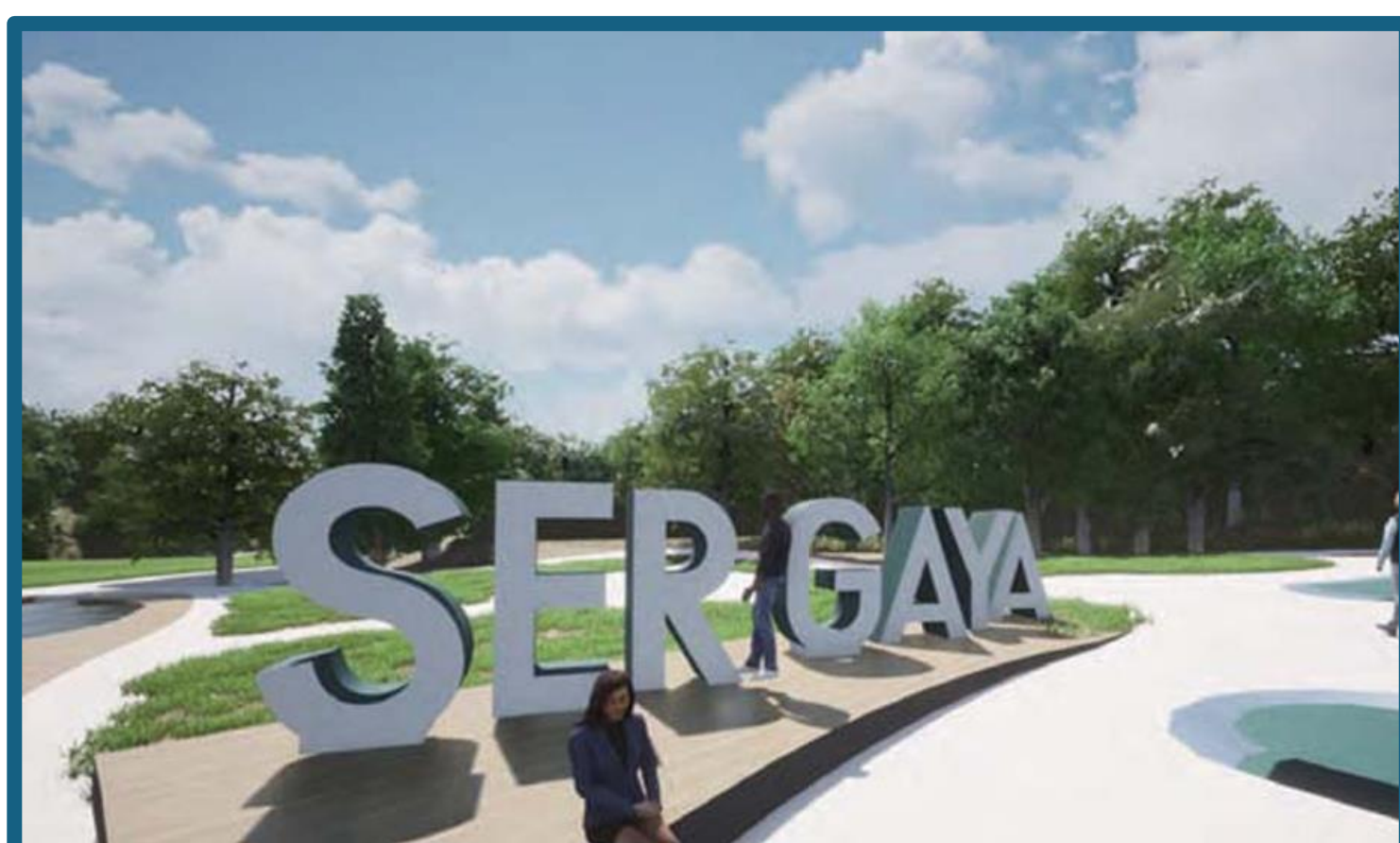
【主な整備内容】
園路・広場、照明設備、シェルター、水飲み、縁台デッキ、ベンチ、案内サイン、植栽等

第3期整備区域

【主な整備内容】
園路・広場、公園遊具、スロープ、デッキ、照明設備、水飲み、縁台デッキ、ベンチ、案内サイン、植栽等

都市計画道路3・4・11号

公園案内棟/喫茶
工房/アート体験棟
（予定地）



これまでの整備計画の概要 (2/3)

(仮称) 国際工芸美術館

実施設計 2021年～2023年

構造規模 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
地下1階／地上3階
高さ・面積16.99m
延床面積2182.35㎡ ・ 308.61㎡ (EV棟)

コンセプト
博物館が所蔵する美術品のうち、国内でも秀でた貴重なコレクションとして特に高い評価を受けている「ガラス」と「陶磁器」に絞った(仮称)国際工芸美術館を整備する

主な機能
美術品の収蔵、企画展示、常設展示



(仮称) 公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟

実施設計 2022年～2024年

構造規模 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
地下1階／地上2階
高さ・面積 8.79m
延床面積999.70㎡

コンセプト
工房機能を中心に、多様な世代の人々がアートに触れ合うことができる機会を提供する。また“芸術の杜”の総合案内や創作・体験活動が集約した玄関口として、アートや芹ヶ谷公園の情報・魅力を提供する

主な活動内容
版画制作・陶芸体験・ガラス体験
“芸術の杜”の情報発信



これまでの整備計画の概要 (3/3)

アート出合いの広場

国際版画美術館の1階の一部を改修し「アート出合いの広場」を整備

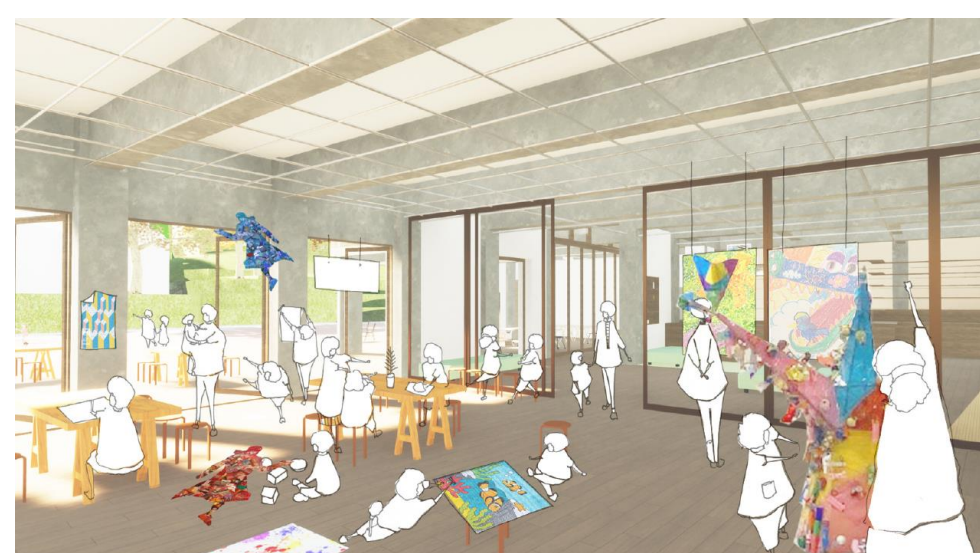
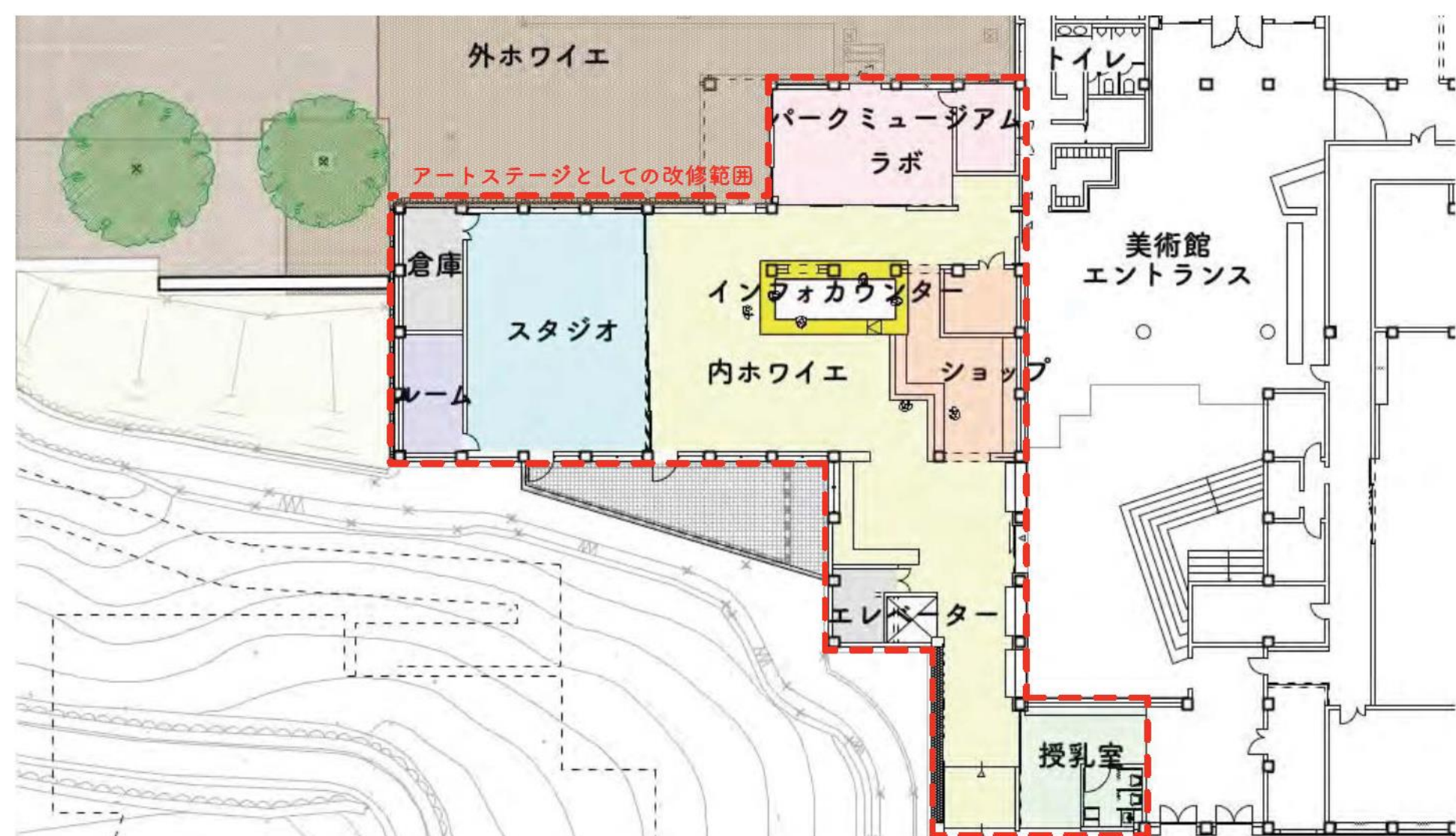
基本設計 2020年

コンセプト

公園と連続するひらかれた美術館として、公園、国際版画美術館、国際工芸美術館をシームレスにつなぎ、美術館の新たな顔となる導入空間

主な活動内容

学芸員による気軽なギャラリートーク、公開制作
美術館の導入展示、パフォーマンスアートなど



公園エレベーター棟

基本・実施設計

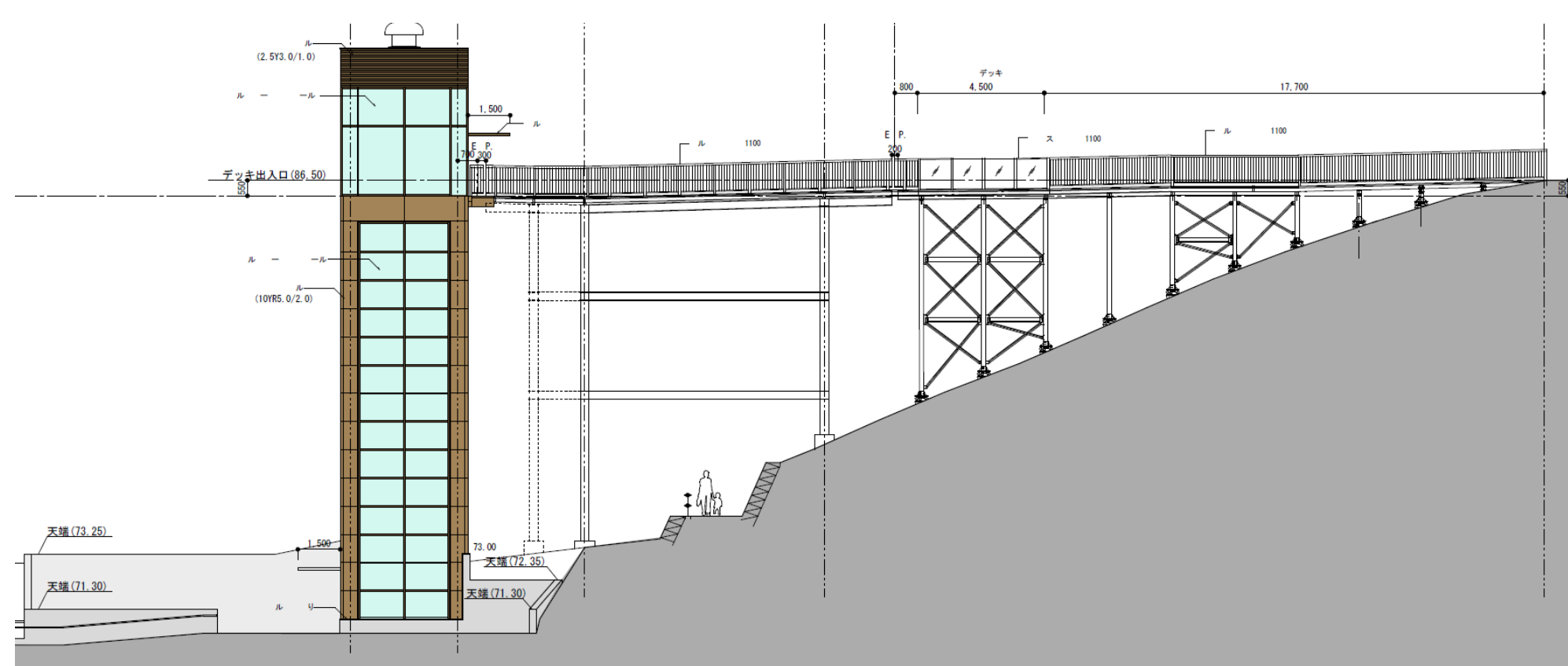
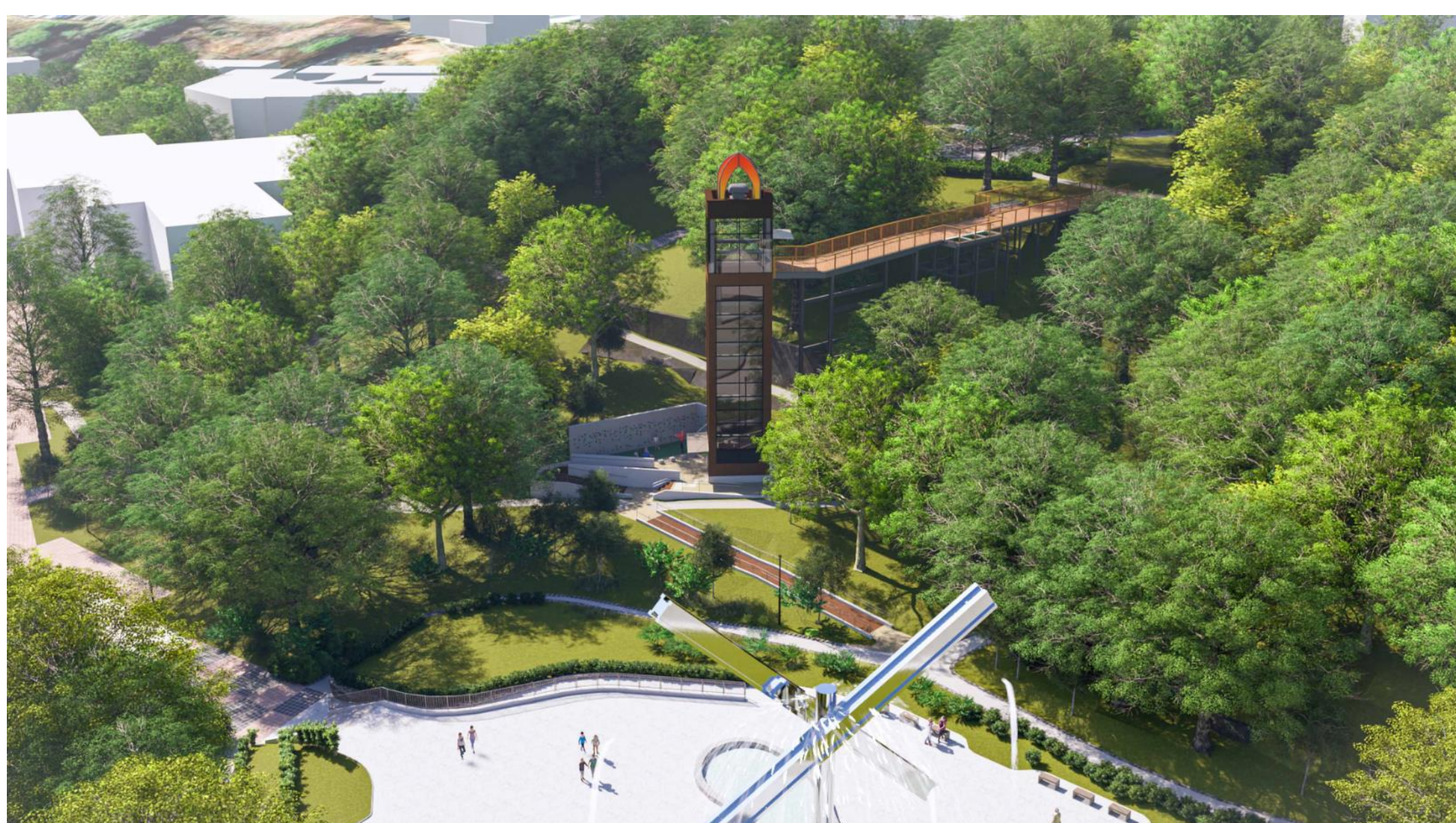
2023年～2024年

コンセプト

公園内の高低差を解消するエレベーター

整備内容

エレベーター（自転車2台乗入可）
デッキ（幅3m、長さ約40m）



これまでにいただいたご意見 (1/2)

●これまでの経緯

- ◎国際工芸美術館の建設計画に至った経緯から説明してほしい。
- ◎住民説明会で立地や施設規模も決めてきた経緯を説明してほしい。
- ◎国際工芸美術館の展示室の構成を見直し、国際版画美術館の中に工芸コーナーを作り、収蔵庫だけを別に建設すれば良い。
- ◎工芸美術館をつくるのであれば芹ヶ谷公園ではなく他の土地や施設との複合化などを検討すべき。

●住民説明会について

- ◎芹ヶ谷公園“芸術の杜”の整備計画について、市長から直接説明を聞きたい。
- ◎芹ヶ谷公園“芸術の杜”の整備計画自体を見直してほしい。
- ◎国際工芸美術館の建設や国際版画美術館改修など、対話の積み重ねが出来る場を設定してほしい。
- ◎芹ヶ谷公園を愛して集まった市民の声を計画に反映すべきである。
- ◎地域住民や関係団体などとの意見交換を実施してほしい。

●“芸術の杜”整備計画について

- ◎芹ヶ谷公園“芸術の杜”整備事業のスケジュールを見直ししてほしい。
- ◎これだけ住民から反対に対する意見もあるので、国際工芸美術館を建設する必要がある。
- ◎町田市立博物館をリニューアルすれば良いと思う。
- ◎国際工芸美術館の建築計画を考え直してほしい。
- ◎国際工芸美術館など、整備に係る費用を基礎的な市民生活の底上げに使用してほしい。

●国際工芸美術館の計画について

- ◎国際工芸美術館を現在の計画にある斜面地では無く「平地」に造るべき。
- ◎国際工芸美術館を現在の計画にある斜面地では無く「町田荘跡地」に造るべき。
- ◎国際工芸美術館の建物位置を変更してほしい。
- ◎国際工芸美術館の計画について収蔵庫の外観が良くない。公園外への建設を検討すべき。

●自然環境について

- ◎芹ヶ谷公園の緑は維持されるのか、具体的な説明がほしい。
- ◎町田市は芹ヶ谷公園の緑を大切にすると言いながら、国際工芸美術館の建設で緑を減少（伐採）させる計画であり、矛盾している。
- ◎芹ヶ谷公園の自然に手を加えないでほしい。
- ◎国際工芸美術館の建設では無く、芹ヶ谷公園の樹木整備を先に考えてほしい。
- ◎芹ヶ谷公園は最低限の公園整備で良い。

●自然環境について

- ◎芹ヶ谷会館から「my sky hole（銀の玉）」までの遊歩道が美術品を搬出入する通路になるのは見直してほしい。
- ◎工事動線が町田街道から芹ヶ谷会館までの住宅地を通過し「my sky hole（銀の玉）」までの遊歩道を通る計画となっており、危険である。

これまでにいただいたご意見（2/2）

●エレベーター・公園スロープについて

- ◎国際版画美術館へのアクセスを向上するためのエレベーター設置は進めてほしい。
- ◎自転車を利用可能なエレベーターは必要ない。
- ◎国際版画美術館と国際工芸美術館を連結するブリッジやエレベーターの必要性に疑問がある。
- ◎園内のスロープが国際工芸美術館建設によって無くなる計画であるが、とても大切なスロープである。

●国際版画美術館や市立博物館について

- ◎版画や工芸のコレクションが良いのでもっと積極的に発信して欲しい。
- ◎素晴らしい企画であれば距離に関係なく遠方でも来ると思う。収蔵品に関わらず「行きたくなる」企画をしてほしい。
- ◎国際版画美術館と国際工芸美術館の一体化に固執せずにもっと広いエリアで考えて頂きたい。
- ◎公園内にある美術館は行かないことが多い。ぜひ、もっといきたくなるようなものにしてほしい。

●アート出合いの広場について

- ◎アートや工房だけでは人はこない。若者から思うこととしては、芹ヶ谷公園は小・中学校の作品展を行う、学校の授業でしかいかなない場所のイメージが強い。
- ◎アート出合いの広場にはどのような展示をするのか分からない。

●版画工房や喫茶について

- ◎現在のアトリエはとても使いやすくスタッフも素晴らしい。この場所がこのまま継続されることを希望。
- ◎コンサートも出来るホールや版画自習室、そしておだやかな場の喫茶室の移設は無駄使い。このまま存続してほしい。
- ◎体験はいろいろ工夫すれば出来るので、新しい体験棟の施設整備はしなくていい。
- ◎版画工房が国際版画美術館の中にあることのコンセプトを考えて欲しい。

●駐車場整備について

- ◎今後、芹ヶ谷公園を訪れる人口がかなり増えることが予想される。特にイベント時は周辺道路が渋滞するため、駐車場や駐輪場の増設が必要。
- ◎休日はグラウンド側の駐車場が満車となり駐車待ちもできている。たくさんの人に芹ヶ谷公園を利用してもらいたいならインフラ整備も必要。

●中心市街地とのつながりについて

- ◎町田市魅力を高めるために国際工芸美術館を建設することは良いと思う。しかし、現在の計画では、町田駅周辺に遊びにきた人が気づくことはなく、公園に足を延ばすことは期待できない。
- ◎町田駅からのアクセスについて、電車で来る人に分かりずらいため検討が必要。
- ◎町田駅前のバリアフリー化や道路の整備など、弱者への配慮は必要である。
- ◎国際版画美術館と公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟の間は生活道路であり、交通の安全を確保してほしい。